

第38回オートサービスショー2025いよいよ開幕!

変化を楽しみそして未来へ

変わらないもの Peace of mind(安心)

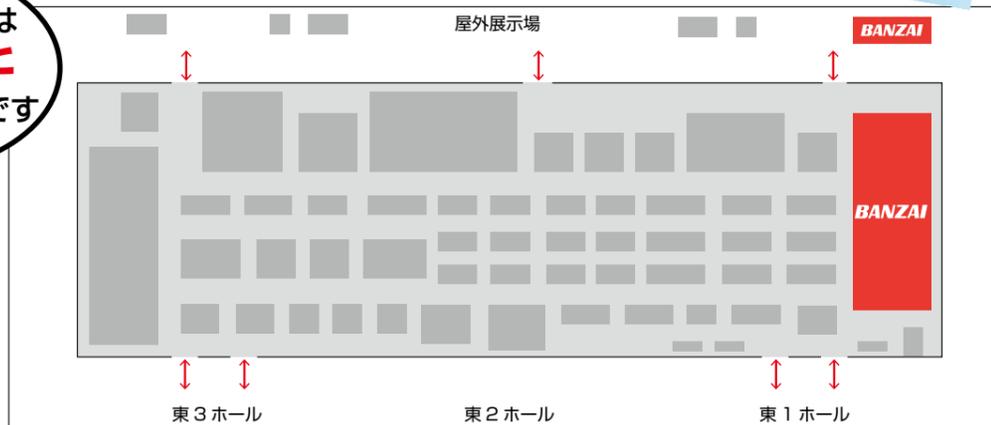
会場 東京ビッグサイト(東京国際展示場)
東1・2・3ホールおよび屋外

日程 2025年6月19日(木)~6月21日(土)
10:00~17:00 ※最終日は16:00まで



※案内状はイメージです。

バンザイブースは
**東1ホールと
屋外展示場**です



皆様のご来場を心よりお待ちしております!

オートサービスショー2025へご来場の皆様につきましては、入場の際に**事前登録**が必要です。
スムーズにご入場を頂くため、**事前登録**をお願いします。

(事前登録をしていない場合、当日会場にて登録手続きが必要となります)

事前登録

下記を読み取り、
開催事務局HPより事前登録
ページへアクセスしてください。



来場者特典

**BANくん
グッズ
プレゼント**

バンザイブースで
受付いただいた方に
プレゼント!!

プレゼントは数量限定の為なくなり次第終了となります。

バンザイ特設サイト

各コーナーの注目商品
などが掲載!?

特設サイトは
4月21日
公開

▼バンザイホームページ

よろしくお願いします

BANZAI 株式会社 バンザイ

<https://www.banzai.co.jp>

本社
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6880
E-mail: eigyo@banzai.co.jp

営業部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6881

海外販売部
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6894

札幌支店
札幌市西区24軒1条7-3-10
TEL 011-621-4171

仙台支店
仙台市宮城野区福室2-8-21
TEL 022-258-0221

関東支店
埼玉県北本市朝日4-553
TEL 048-590-3700

東京支店
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6840

名古屋支店
名古屋市千種区青柳町6-26
TEL 052-732-2600

大阪支店
東大阪市長田東3-3-11
TEL 06-6744-1041

広島支店
広島市西区南観音2-7-10
TEL 082-233-3201

福岡支店
福岡市博多区那珂5-3-15
TEL 092-411-1261

- 営業所 旭川・青森・秋田・盛岡
郡山・山形・新潟・長野
前橋・宇都宮・水戸・埼玉
千葉・横浜・静岡・多摩
北陸・三重・京都・神戸
高松・宮崎・鹿児島
- 出張所 帯広・函館・富山・松山
岡山・山口・山陰・長崎
大分・熊本
- 販売会社 バンザイ沖縄販売(株)



ISO9001 認証取得
ISO14001 認証取得

バンザイは SDGs を推進する
日本ユネスコ協会連盟の維持
会員として支援しています。

BANZAI NEWS

2025
Spring
334

特集
BANZAI NEWS

既存のお客様に「安心」を
提供できるサービスショップへ





羊蹄山と桜 北海道
羊蹄山(よていざん)は北海道にある山で、その美しい形から「蝦夷富士」とも呼ばれている。
春になると、周辺には桜が咲き誇り、その絶景は多くの観光客や地元の人々に愛されている。
羊蹄山をバックに、桜の花が風に舞うシーンは、まさに日本の春の風物詩。

★歳時記

4月	18日	発明の日
	29日	昭和の日
5月	3日	憲法記念日
	4日	みどりの日
	5日	こどもの日
6月	5日	環境の日
	10日	時の記念日
	19~21日	第38回オートサービスショー2025
	21日	夏至



●目次

★特集

カーオーナーに「安心」を提供できる
持続可能なサービスショップとなるには?.....①

【第1回】既存のお客様に「安心」を提供できるサービスショップへ
★モデルショップ訪問

【つしまオート株式会社 MEGAつしまオート北名古屋店】.....⑥
お客様がワクワクできる大規模トータル
カーサービスショップが北名古屋に新設

【鹿児島トヨタ自動車株式会社 本社・鹿児島店・モビリティスクエア】.....⑩
従来の自動車ディーラーの枠を超えた
モビリティを含む情報発信拠点が誕生

★【MSC感動夢工場 第6回研究会】.....⑭

★ショールーム.....⑯

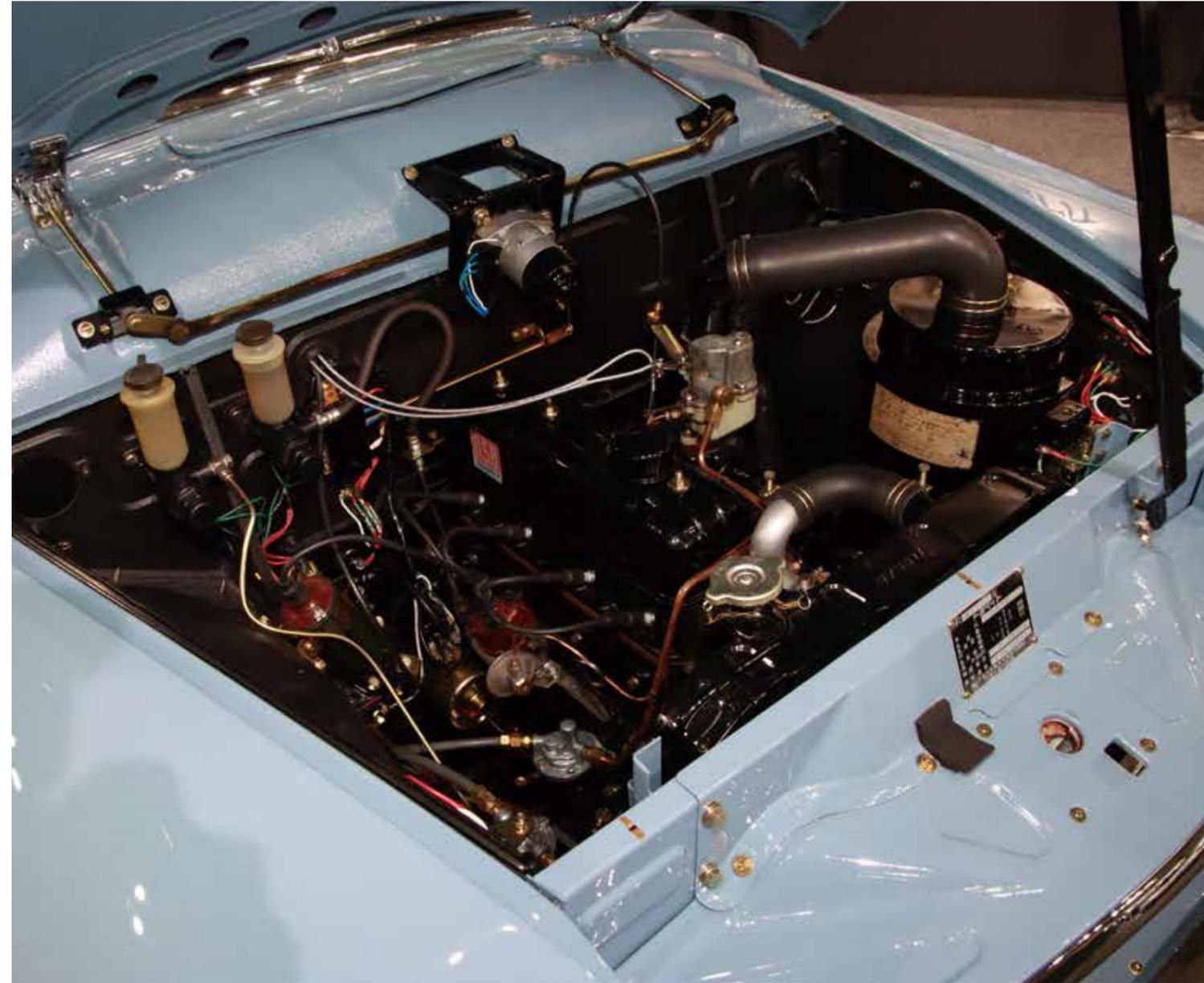
★ロータリー.....⑳

★BANZAIガイド.....㉑

特集 BANZAI NEWS

カーオーナーに「安心」を提供できる
持続可能なサービスショップとなるには?

第1回 既存のお客様に「安心」を
提供できるサービスショップへ



欧米や中国を中心として近年急速に普及が進んでいたBEV(バッテリー式電気自動車)は、競争激化や関税強化、補助金削減などによって新車販売が急減速しました。日本の足元を見ても、BEVの保有台数は約20万台と、台数・シェアともいまだに低調。一方でICV(純エンジン車)の保有台数が約7000万台と、今なお圧倒的な主流であり続けています。
当新連載「カーオーナーに「安心」を提供できる持続可能なサービスショップとなるには?」、1回目の今回は、依然として保有台数が圧倒的に多い既存のICVとそのカーオーナーをいかに守り、増やしていくかを、考えていきたいと思います。

**BEVの普及拡大が急減速。
ICVの保有台数は今なお8割**

2015年9月のいわゆる「ディーゼルゲート」を契機として、欧州の自動車メーカー各社は急激に電動化、とりわけBEV（バッテリー式電気自動車）のラインアップ拡大にシフト。また、翌2016年9月にダイムラーが提唱した「CASE」（= Connected（コネクテッド）、Autonomous（自動運転）、Shared & Services（シェアリング・サービス）、Electric（電動化））を合い言葉に、世界中の自動車メーカーは過去10年間、各先進技術の普及・拡大に邁進してきました。

その中で中国の自動車メーカーが、とりわけBEVとPHEV（プラグインハイブリッド車）で急成長を遂げるとともに競争が激化。2023年末にドイツがBEV購入補助金を打ち切り、翌2024年10月にEUが中国製BEVに追加関税を課すなど、BEVにとり逆風となる政策が相次いだこともあり、新車販売が急激に減速しています。

こうした動きを受けて、BEVラインアップ拡大に注力して

いた欧米自動車メーカー各社の業績が大幅に悪化。製品ラインアップをBEVに一本化する計画を撤回し、新規エンジンの開発を再開するメーカーや、経営陣交代の憂き目に遭うメーカーも現れています。

では、日本ではどの程度、BEVの普及が進んでいるのでしょうか？

新車販売については、2024年暦年の実績が全体の約2%。サービスショップの皆さんにとってより重要な指標となる保有台数に至っては、2024年3月末時点の実績で約20万台、シェアは約0.25%となっています。乗用車だけに絞ってみても約19万台、約0.3%です。

一方でICV（純エンジン車）の乗用車保有台数は、同じく2024年3月末時点の実績で約4900万台。いまだに約8割のシェアを、HEV（ハイブリッド車）やPHEVでさえない、駆動用の電動モーターを搭載していない車両が握っているのです。

そのうえ乗用車の保有台数は、2022年に一度減少するものの、2023年には再び微増傾向へ転じているため、当面の

間は保有台数が増加し、またICV主体の傾向も続くと見込まれます。

とはいえ、日本の人口減少は政府の想定以上に早く進行しているため、それを起因とした保有台数と顧客の減少は、避けられない流れと言えるでしょう。

従って、ただ既存のお客様を守ることさえも難しくなり、「お客様離れを防ぎさえすればよい」という現状維持ありきの発想に基づいたサービスショップ経営には、いずれ限界が訪れます。

また、大規模な異常気象と自然災害が世界各国で発生していることから、地球温暖化回避に向けた電動車の普及は、今後も緩やかながら着実に進行すると予想されます。

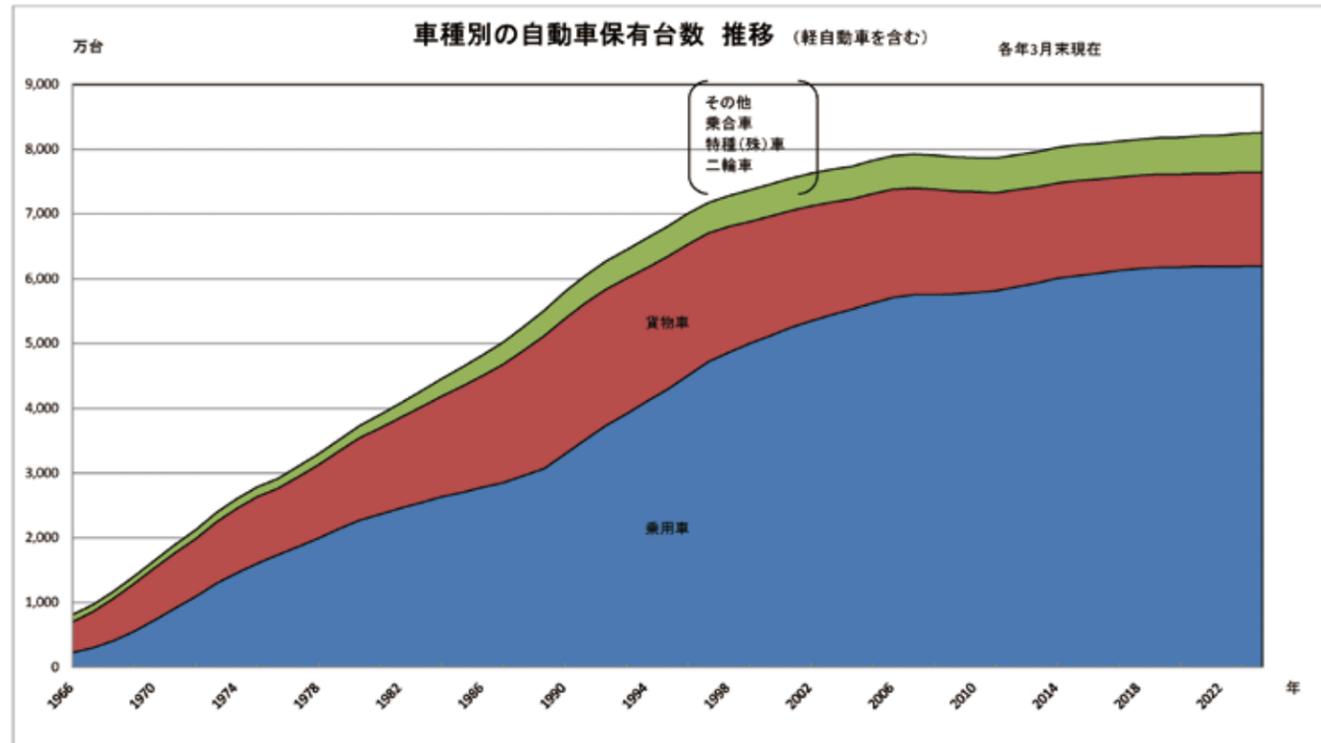
つまりサービスショップの皆さんには、ICVはもちろんHEV/PHEV、BEVなどあらゆるパワートレインに対応できる「マルチパスウェイ（Multi-Pathway=複数の小道）戦略」が、今後求められるようになるのです。

しかしながら、少人数で経営されている専門のサービスショップの皆さんが「マルチパスウェイ戦略」を採るのは、設備投資に対する採算性、またメカニックの皆さんの知識・技術習得に割ける時間を考えても現実的ではありません。

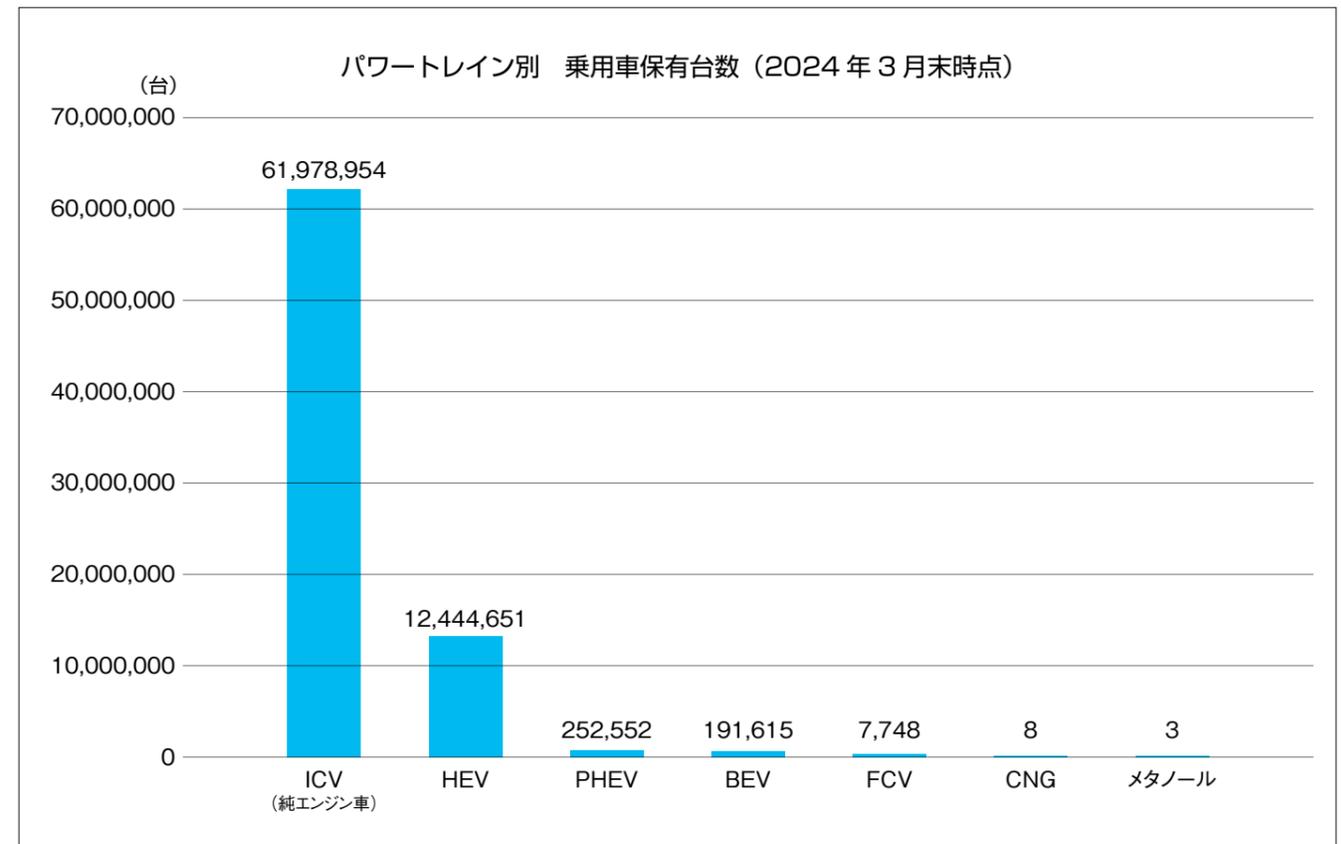
むしろ、全てに手を出すのではなく、得意とするカテゴリ・ブランド・車種に絞り込んで設備・知識・技術などを高めていく「ニッチ（niche=隙間）戦略」の方が有効と考えられます。

というのも、特定のブランドに絞り込んで新車を販売し、またサービスを展開するディーラーの皆さんは、常に最新の車種・技術に対応し続けなければなりません。その分、新車販売が終了し、補修部品の供給も滞り始めた車種への対応は、どうしても手薄になりがちだからです。

専門のサービスショップの皆さんにおいては、そうしたディーラーの皆さんの苦手分野を補い、棲み分けを図ることこそ、有効なニッチ戦略になるのではないのでしょうか。



車種別の自動車保有台数推移(出典:自動車検査登録情報協会「わが国の自動車保有動向」)



パワートレイン別・2024年3月末時点の乗用車保有台数(出典:自動車検査登録情報協会「わが国の自動車保有動向」)

オイルの低粘度化は頭打ちも さらなる多様化は進行中

とはいえ、ICVにおいても技術革新は現在進行形で進んでおり、それはICV向けであるなし、また年式の高低を問わず、消耗品の分野においてもまた同様です。

ここでは、サービスショップの皆さんにとって大きな収益源である、オイルとタイヤを中心に、近年の動向を振り返りたいと思います。

まずオイル類は、少しでも抵抗を減らし燃費を改善すべく、推奨オイルの低粘度化が進んできました。そうした流れの中、2019年にはSAE 0W-8および0W-12という超低粘度のガソリンエンジン用オイル規格「JASO GLV-1」が制定され、翌2020年からは適合製品も増えていきました。

しかしながら、さらなる低粘度化は技術向上と普及とを両立する観点から難しいという考えから、2024年3月には「JASO GLV-2」という新たな規格が制定されています。これはSAE 0W-16および0W-20を対象とし、オイルの絶対的な粘度が低くなる高温域では従来のSAE20やSAE16と同等の粘度を維持して油圧や油膜を確保しつつ、逆に絶対的な粘度が高くなる中低温域では粘度を下げて省燃費性能を向上させたものになります。

またこの「JASO GLV-2」では、既販車への適用も念頭に入れ、摩耗防止性や高温酸化安定性などは「JASO GLV-1」と同等ながら、過給エンジンにも適用できるようLSPI (Low speed pre ignition. 低速早期着火) 防止性の規定も追加しています。

今後この「JASO GLV-2」に適合したエンジンオイルが発売され普及が進めば、従来より0W-16または0W-20が推奨されているエンジンにも、より低燃費なオイルとして使用できる可能性が見えてきます。

また欧州の自動車メーカーを中心に、独自の要求性能を規定し、それをクリアしたオイルに認証を与えるアブルーバル（認証）制度を敷いて、それを自動車メーカー純正オイルに代わる指定オイルとしているケースも多く見られます。

さらには、一度使用したエンジンオイルを再精製し性能を回復させた、再生オイルの導入も進んでいます。

一方、1980～90年代のネオクラシックカー、そして1970年代以前のクラシックカーに搭載されているエンジンでは、こうした近年の低粘度オイルではエンジン保護性能が不足し適さないケースが多くなります。

さらにベースオイルの種類も、100%化学合成油や部分合成油よりも、密閉性などの面で有利な鉱物油の方が適しているケースが多く、また鉱物油をベースとしたクラシックカー向けエンジンオイルが各オイルメーカーから販売されています。

タイヤは技術革新の余地大。 クラシックカー向けも定着

では、タイヤはどうでしょうか？
従来のセダンに取って代わる形でスタンダードな車種として定着しつつあるSUV向けを中心に、対応する走行ステージや車格がより一層細分化されるようになりました。

一方、非降雪地帯のカーオーナーを



水や低温で柔らかくなるゴム「アクティブレッド」を採用したオールシーズンタイヤ「ダンロップ・シンクロウェザー」。右の性能比較イメージ図からも、サマータイヤとスタッドレスタイヤの性能を両立させていることがうかがえる

路面状態	次世代 オールシーズンタイヤ SYNCHRO WEATHER	スタンダード サマータイヤ EC204	スタンダード スタッドレスタイヤ WM02	オールシーズン タイヤ AS1
ドライ路面	○	○	△	○
ウェット路面	○	○	△	○
氷上路面	○ ^{※4}	×	○	×
雪上路面	○	×	○	○
シャーベット路面	○	×	○	○
高速道路冬用タイヤ規制	通行可 ^{※5}	チェーン装着	通行可	通行可 ^{※5}
全車チェーン規制	チェーン装着	チェーン装着	チェーン装着	チェーン装着

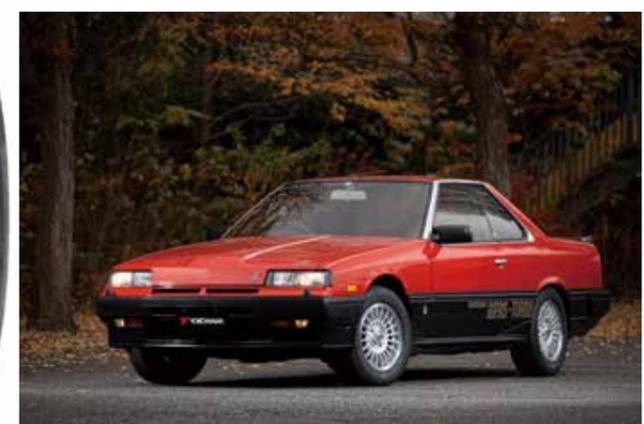
※4 凍結路面・凍結路面を走行できるのは、WINTER MAXX 02の設置を要します。
※5 駆動方式：FF ●ABSの有無：有 ●最高速度：200km/h
●制動距離(100)：WINTER MAXX 02=98. SYNCHRO WEATHER=100. WINTER MAXX 02の方が僅かに優れています。
●試験条件 ●タイヤサイズ：195/65R15 SYNCHRO WEATHER=98H. WINTER MAXX 02=91C ●空気圧：250/240kPa ●テスト車種：軽自動車 ●テストコース：凍結路面 ●テスト車種：トヨタカローラツーリング
※6 エリアによってはオールシーズンタイヤでは高速道路冬用タイヤ規制に走行できないことがあります。詳細は各都道府県の道路管理者に確認ください。

ターゲットにしたオールシーズンタイヤを、各タイヤメーカーが相次いで投入。その中で、従来相反する性質を兼ね備えたゴムを開発し、舗装路でのドライ・ウェットグリップ性能と氷上でのブレーキ性能をより高次元で両立させたオールシーズンタイヤも誕生するなど、市場拡大とともに技術革新も進んでいます。

またタイヤにおいても、ネオクラシックカーやクラシックカーをターゲットとしたラインアップが拡充。サイズ、グリップ、トレッドパターンとも、これらの車両に適したものを備えた、過去の銘柄を復刻販売するケースが増えています。

こうしてオイルとタイヤの動向を見るだけでも、各車種とカーオーナーの使い方に適した銘柄を把握し提案するのは極めて困難であることが想像できると思います。その点でも、扱うカテゴリー・ブランド・車種を絞り込む「ニッチ戦略」の方が有効かつ現実的と言えるでしょう。

さらに、取り扱い車種について、相性の良いオイル・タイヤなどの消耗品、壊れやすい部位、入手しにくい部品などといった、一朝一夕では身につかないノウハウを積み重ねて

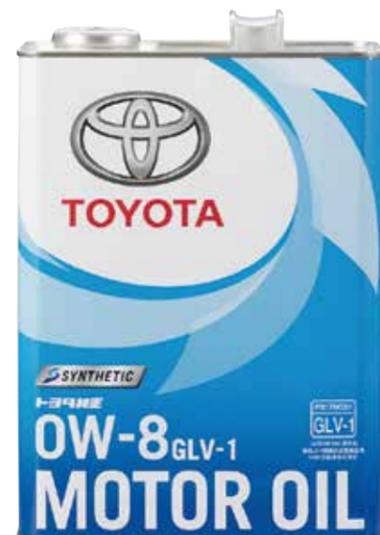


1981年に発売され、2017年にネオクラシックカー向けタイヤとして復刻された、横浜ゴムの「アドバンHFタイプD」。性能面のみならずデザインにおいてもネオクラシックカーとの親和性が高いことが見て取れる

いけば、その車種のカーオーナーに対し、他では得られない「安心」を提供することができます。

これがそのサービスショップの圧倒的な強みかつオンラインの魅力となり、持続可能性の向上につながるのです。

今回は、現在の新車の中心的存在となっているHEV/PHEVをテーマとして、「トータルエイミング」の実践によって現行車オーナーの「安心」をいかに獲得するかを考えたいと思います。



「JASO GLV-1」の認定を初めて取得した「トヨタ純正モーターオイルGLV-1 0W-8」



ネオクラシックカーやクラシックカーに適した鉱物油ベースのエンジンオイルを各社がラインアップ(写真はLIQUI MOLY)

お客様がワクワクできる大規模トータルカーサービスショップが北名古屋に新設



つしまオート株式会社 MEGAつしまオート 北名古屋店の外観。

「尾張地区最大級の軽自動車専門店」をキャッチコピーとするつしまオート株式会社が2025年1月1日、北名古屋市内に新規店舗をオープン。巨大な車両展示スペースを有しつつ、車検・点検整備にも幅広く対応する、トータルカーサービスショップが誕生しました。



店長 平野 信和 氏 工場長 森本 和磨 氏 整備士 田中 祐希 氏



大きな受付カウンターと9つのテーブルを備える、上質で落ち着いた雰囲気のリセプション。左奥のカウンターテーブルからはサービス工場での作業の様子を一望できる。



小さなお子様のいる家族連れも安心してつろげるようキッズスペースや授乳室を完備。

お客様にワクワクしてもらえるお店づくりを推進

つしまオート株式会社は、1954年5月設立の合資会社津島マツダと、1980年7月設立の同社をルーツとし、2009年7月に合併。2016年11月には車販を主体とする大坪店（愛知県津島市大坪町蛤田18）を新規オープンし、整備中心の本店（同、又吉町4-16）とともに、半世紀以上にわたり津島市内を主な商圏としてきました。

しかし、2025年元旦にオープンした「MEGA つしまオート 北名古屋店」は、本店から北東へ約20km、大坪店からも

15kmほど離れた場所にあり、同社にとっては完全に空白地帯での新規開拓ということになります。

そのためもあり、北名古屋店は「お客様にお越しいただき、ワクワクし『来て良かった』と思っただけのお店」（森本工場長）をコンセプトとして、広々として設備も充実しながら清潔感のあるショールーム、200台超の軽自動車を



敷地内には2ヵ所の広大な車両展示スペースを確保。約200台を在庫可能としている。

在庫できる「MEGA」の名にふさわしい車両展示スペース、そして車検・点検整備にも幅広く対応するサービス工場を兼ね備えた、大規模なトータルカーサービスショップとして設計されました。

中でも同社の村上直之社長が強くこだわった納車スペースは、「納車式でお客様にワクワクを感じてもらえるよう、照明や床も完成ギリギリまでこだわって作りました」と森本工場長。ターンテーブルも備えられており、中古車情報サイトへ在庫車両を出品するための写真撮影にも活用されています。



照明や床面のデザインにもこだわって作られた納車スペース。ターンテーブルは車両撮影にもフル活用されている。

整備・車検・洗車の全てにおいて作業効率を最大限追求

サービス工場は6つの整備ストールと車検ストール、洗車場で構成。

整備ストールには現在、能力3.5tの小型車用埋設シンダリフト「タンデムリフト35」2基と、能力3.2tのXリンク式ドライブオンリフト「フラットワークステージX」1基を導入。「タンデムリフト35」はブレーキ整備を伴う車検や12ヵ月点検、「フラットワークステージX」はエンジンオイル交換などのクイック整備を中心に活用されています。

残りの3基分は基礎工事が完了。「まず年間3000台の入庫を達成したらリフトを増設し、年5～6000台を目指す」（森本工場長）という方針のもと、「タンデムリフト35」2基と、能力4tのアーム式フラット仕様ワイド型「タンデムリフト



写真右側に車検ストールを配置したサービス工場。2ストール分をカバーするシャッター付き出入口が前後に2ヵ所ずつ設けられ、ドライブスルーでの作業が可能となっている。



整備ストールには「タンデムリフト35」（右下）2基と「フラットワークステージX」（左下）を配備。奥側には「タンデムリフト35」2基と「タンデムリフト40」1基を導入予定。

40」1基を今後導入し、小型トラックの点検整備にも対応する計画です。

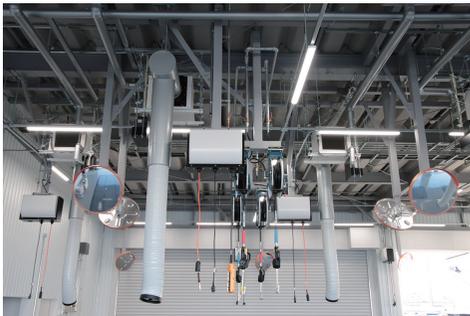
車検ストールにはブレーキ・スピード・サイドスリップ計測に1台で対応する「トリプルテスター」と「固定式フリーローラー」を導入したほか、全自動画像処理ヘッドライトテスター「HT-538」にオプションの「車両誘導装置」を追加。さらに工場全体を前後に通り返し可能としています。これ



車検ストールには「トリプルテスター」と「固定式フリーローラー」を設置。「HT-538」にはヘッドライト中心から受光部までの間隔を約1mとしやすい「車両誘導装置」を追加。

には「近隣で車検ができる工場を探しているカーオーナーが多く、今後入庫台数が増えても対応できるように」（森本工場長）する狙いがあるといいます。

なお各ストールには、2本のオイルガンと前後の丸型点検ミラーを配備したほか、スポットクーラーを完備。また車検が完了した車両をドライブスルーで洗車できるよう、門型洗車機「エminentデルタ」と温水洗車機兼下部洗浄機「アンダーウォッシャー」を、工場外壁に隣接した場所へ設置するなど、作業効率を最大限追求しています。



各ストールには2本のオイルガンと前後の丸型点検ミラーに加え、スポットクーラーも完備し、単独作業時の安全性向上にも配慮。



サービス工場裏側から出た車両は工場左側にある洗車場へ。「エminentデルタ」と「アンダーウォッシャー」で素早く洗車する。

「日本一面白いクルマ屋さん」を経営理念とする当社では、大規模なお客様感謝祭を年に1回開催するなど、ファン獲得・定着に向けた取り組みにも積極的です。この北名古屋の地にも、同社のファンが徐々に増えていくことでしょう。



タイヤチェンジャー「アスリート2」とホイール balancer「TRIM BP-67A」も配置。



小型トラックのエンジン・トランスミッション交換など重整備対応を見据え、能力11tの低床型エンジンリフターを先行投入。



備品倉庫内にはタイヤ・バッテリー・ワイパーなど各種消耗品を保管。中2階にはコンプレッサーを配置しスペースを節約した。

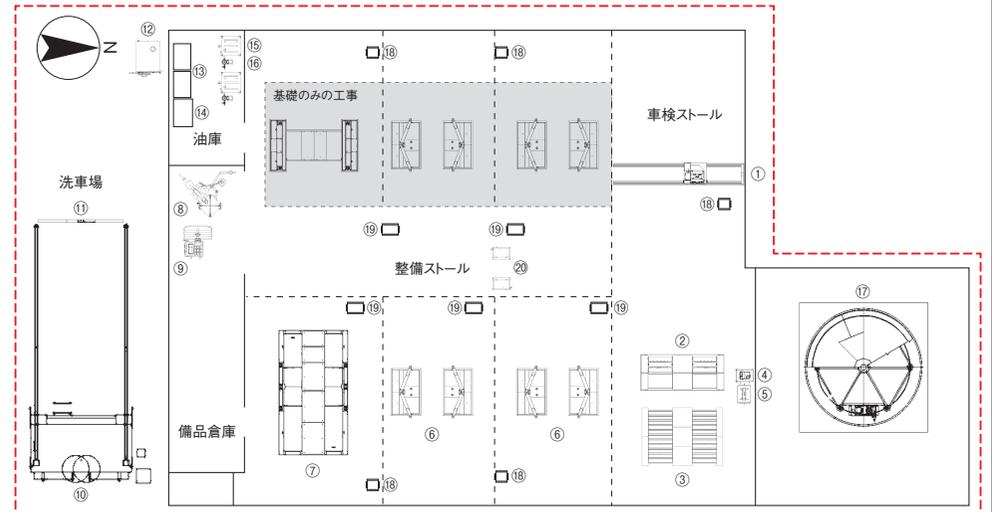


店舗概要

全ストールをドライブスルー可能として
少人数体制での作業効率を徹底的に追求

- 所在地：愛知県北名古屋市沖村佐渡39
- スタッフ数：9名（うちメカニック2名）
- 電話番号：0568-48-5300
- 敷地面積：約2,000坪（6,612㎡）
- 店舗設立：2025年1月
- 工場面積：約107坪（353㎡）

工場レイアウト詳細



■ 設備一覧

- ①全自動画像処理ヘッドライトテスター
- ②トリプルテスター（ハイブリッドローラー）
- ③固定式フリーローラー
- ④排気ガス測定器
- ⑤オパシメータ
- ⑥タンDEMリフト 35 3.5t
- ⑦フラットワークステージ Xリフト 3.2t
- ⑧タイヤチェンジャー（サポートアーム付）
- ⑨ホイール balancer
- ⑩門型洗車機
- ⑪アンダーウォッシャー
- ⑫温水洗車機（アンダーウォッシャー用）
- ⑬廃油タンク
- ⑭廃LLCタンク
- ⑮新油タンク
- ⑯エア一式オイルポンプ
- ⑰ターンテーブル
- ⑱ 2 連リール BOX
- ⑲ 3 連リール BOX
- ⑳給廃油用キャビネット

■ 店舗全体図



従来の自動車ディーラーの枠を超えたモビリティを含む情報発信拠点が誕生



鹿児島トヨタ自動車株式会社 本社・鹿児島店・モビリティスクエアの外観。

鹿児島県内全体を商圈とする鹿児島トヨタ株式会社が2024年5月27日、本社・鹿児島店を建て替えるうえ、1階をモビリティ・エネルギー・コミュニティの情報発信拠点「モビリティスクエア」としてオープン。総計21ストールを誇るサービス工場も一新しました。



営業本部 サービス担当責任者 課長 上野 中氏
鹿児島店 店長 海津 星二氏
鹿児島店 サービスマネージャー 平原 育巳氏



圧巻の広さを誇る店舗・情報発信機能兼イベントスペース「モビリティスクエア」には数多くのカウンター席やテーブル席、広々としたキッズスペースを備えている



2階のラウンジも広々とモダンかつ落ち着いた空間。写真左奥がコミュニティルーム



屋外イベントスペース「MECドーム」。通常は駐車場兼車両展示スペースとして使用



商談スペースは高級レストランながらの半個室(左)に加え、機密性の高い曇りガラスを採用した完全個室(右)も用意



デジタルコンテンツを表示する大型モニター前はイベントスペースとしても利用可能

新発想のモビリティスクエア誕生

設立は1942年11月と、83年もの長い歴史を持つ同社。2024年1月1日には同グループのネットトヨタ南九州株式会社を合併しますが、「本社・鹿児島店を建て替える計画は、両社統合の決定より前から決まっていた」（平原マネージャー）。「以前の社屋は60年近く前の建物で、安全面や

強度も含めて建て替えが必要だということはおかねてより考えられていました。しかしその最中に両社統合が決まったので、それに合わせてキャパシティの見直しなど修正を加えています」（海津店長）。

そうした流れの中で、本社と鹿児島店を兼ねた4階建て新社屋の1階を、鹿児島店の店舗機能に加え、大型モニターとデジタルコンテンツによるモビリティ・エネルギー・コミュ

ニティ（MEC）の情報発信機能を兼ね備えた「モビリティスクエア」へ一新。その向かいの屋外にも「MECドーム」を新たに設置し、いずれも大規模なイベントスペースとしました。なお、展示車は双方に配置が可能。「MECドーム」はお客様駐車場と試乗車の乗降スペースも兼ねています。

また新社屋の2階には、商談・既納客以外の人も気軽に来場し寛げるよう、ラウンジと一般貸出可能なコミュニティルームを完備。3階にはフリーアドレス制の本社機能、4階には同社の歴史展示スペースを設置しました。

こうした大規模な変更の背景にはCASEやMaaSの進化・普及があります。そのため、同社の諏訪秀治会長と柳園久志社長は「旧社屋は約60年間使用されたが、この新しい社屋が60年後にも数歩先を行く発信拠点にしたい」と考え、東京都内の各施設や兵庫県の甲子園歴史館を視察。全面刷新の着想を得たそうです。

安全かつ高効率な作業環境構築 有料洗車に門型洗車機を活用

そして、主にクイック整備を担当するA街区と、重整備とトラック・バスを担当するB街区に、道路を挟んで分かれているサービス工場も、大きく生まれ変わりました。「以前の工場では、狭い所で斜めに車両を入れる必要があったり、車両の特性ごとに決まった場所でのしかリフトアップできないといった、動線上の使いづらさがありました。そこで、ぶつかるものが何



研修室側出入口から見たA街区工場内観。整備ストール奥の「エminentレポリューション」で洗車し、出入口側のスペースで拭き上げる流れを構築



サービス工場全景。写真左側手前がモビリティスクエアに隣接したA街区工場、その奥が研修室。右側は手前からMECドーム、車両置き場、B街区工場



多彩な車両に対応できる「タンデムリフト」フラットプレート・アーム式を4基配備



「タンデムリフト」フラットアーム式2基は主にフレーム車のクイック整備に活用

もないフラットな構造、全方位を見渡せる環境を作りつつ、新しい機材も入れて働きやすさを改善しています」（海津店長）。

とりわけリフトに関しては、「軽自動車からRVまで全て対応できる、能力3tの『タンデムリフト』フラットプレート・アーム式を7基導入したことで、空いているストールに効率良く車両を入庫できるようになりました」。また、「ストールごとの間隔が狭く、数はこなせても出し入れが不便だったり作業がしにくかったりしたのですが、新工場は4m以上を確保しているので、安全面だけではなく作業効率も向上しました」（平原マネージャー）。その結果、リフトの数は旧工場より減ったものの、



同社各拠点のメカニックが新技術習得に訪れる研修室。写真左奥に「タンデムリフト」フラットプレート・アーム式と能力4tの「フラットワークステージX」アライメント仕様を配備



マイクロバスや小型トラックもクイック整備しやすい能力5tの「フラットワークステージX」



中型トラックにも対応する能力5.5+5.5トンの「キャタピラツインミニ」



車検ストールには「ネットワークイージープラス」を新規導入しコンプライアンスを強化



「エミネントガンマ2」(左)と拭上場はB街区工場隣接の別棟・車両置き場側に設置



B街区工場内観。写真手前側に、「タンデムリフト」フラットプレート・アーム式2基の間を挟むようにして「タンデムリフト」フラットアーム式を1基ずつ配備している

以前より短い時間で作業が終わるため、メカニックの残業は減りつつも前年なみの年間入庫台数約1万2000台を維持できているそうです。



B街区工場2階には女性メカニック用の休憩室を設置しシャワールームも完備している

また、桜島からの火山灰に常に悩まされる土地柄、門型洗車機は「エミネントレボリューション」と「エミネントガンマ2」の計2基を導入。有料洗車メニューへ積極的に活用されており、「通常の塗装では水を流しても火山灰が流れていかない」(平原マネージャー)ことから、洗車機撥水コーティング「DUコートeco3」は圧倒的一番人気だそうです。

一般客のみならず同業他社からも来場が多いというこの新拠点は今後、従来の自動車ディーラーの枠を超えた、鹿児島の人々の新たな憩いの場として発展することでしょう。

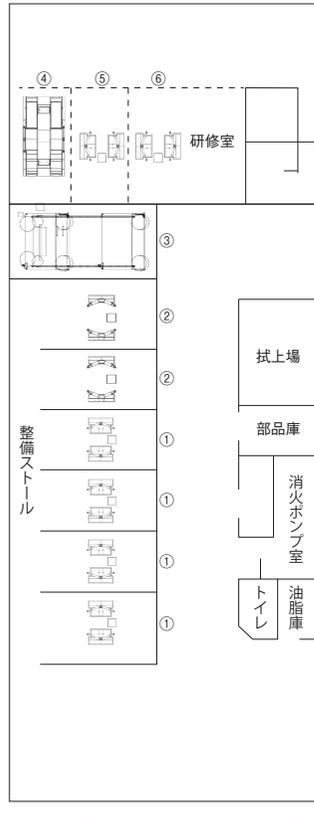
店舗概要

絶対的なストール数よりも安全性と作業効率を優先しゆとりあるレイアウトを採用

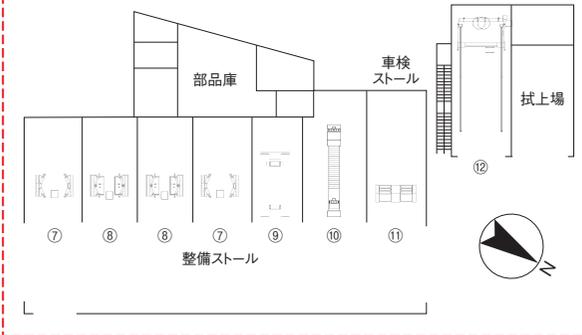
- 所在地：鹿児島県鹿児島市西千石町1-28
- スタッフ数：29名（うちメカニック13名）
- 電話番号：099-223-6165
- 敷地面積：約2351坪（約7,772㎡）
- 店舗設立：2024年5月
- 工場面積：約305坪（1,010㎡）

工場レイアウト詳細

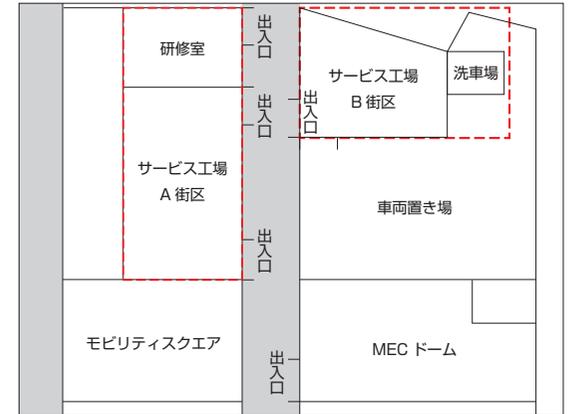
サービス工場A街区



サービス工場B街区



店舗全体図



設備一覧

【A街区工場】

- ① タンデムリフトフラットプレート・アーム式×4
- ② タンデムリフトフラットアーム式×2
- ③ エミネントレボリューション

【A街区研修室】

- ④ フラットワークステージ4t・アライメント仕様
- ⑤ タンデムリフトフラットプレート・アーム式
- ⑥ タンデムリフトアーム式

【B街区工場】

- ⑦ タンデムリフトフラットプレート・アーム式×2
- ⑧ タンデムリフトフラットアーム式×2
- ⑨ フラットワークステージX5t仕様
- ⑩ キャタピラツインミニ
- ⑪ HT-319、トリプルテスター、ネットワークイージープラス
- ⑫ エミネントガンマ2

2025年2月25日(水)・26日(木)

MSC 感動夢工場 第6回研究会



日本全国の主要な整備事業者で組織するMSC 感動夢工場は2025年2月25日(火)・26日(水)の両日、東京にて第6回研究会を開催しました。同会のルーツとなるMSC 経営戦略会議は半世紀前に活動をスタート。車検制度改革に揺れる当時、同会議は業界をリードして対応策を検討してきました。今回の研究会は原点に立ち返り、OBD 検査をテーマに議論を展開するとともに、人手不足と賃上げについての情報交換を行いました。全国から集った各会員によるOBD 検査の料金をはじめ、検査の実施状況などを会員事業者に展開、また賃上げの状況についても各社の事例を共有するなど、白熱した研究会となりました。

挨拶 | 待ったなしの人手不足と賃上げ対策 MSC 感動夢工場 小川慶一会長



小川慶一会長は研究会の開会に先立つ挨拶で2つの懸念を示しました。ひとつは極端な物価高騰による影響です。賃上げ圧力が拡大する中、中小企業にとって厳しい状況が続いている点に触れ、「最低賃金が1,500円になった時をシミュレーションしたところ、新規で事務員を雇用すると給与が27万円になることが分かりましたが、今後どのように対応していくべきか。会員事業者でどのような賃上げを実施しているか、お聞かせください」と呼びかけました。

様々な課題を取り上げて訴えた小川慶一会長。

また、人手不足の問題について、2050年の労働者人口は現在よりも630万人減少するとの政府発表を引用し、「将来的に自動車整備業界は外国籍の人材に頼らなければ立ちいかない状況になる」と懸念を示しました。小川会長が経営する「ピットワン・Ogawa」(愛知県名古屋市)ではスリランカ籍の人材を雇用しており、その現状を事例に、外国籍人材の雇用の現状と対策について、「会員企業で情報交換を行い、対応策を見出していきたい」と会員事業者のさらなる結束を訴えました。

また、人手不足の問題について、2050年の労働者人口は現在よりも630万人減少するとの政府発表を引用し、「将来的に自動車整備業界は外国籍の人材に頼らなければ立ちいかない状況になる」と懸念を示しました。小川会長が経営する「ピットワン・Ogawa」(愛知県名古屋市)ではスリランカ籍の人材を雇用しており、その現状を事例に、外国籍人材の雇用の現状と対策について、「会員企業で情報交換を行い、対応策を見出していきたい」と会員事業者のさらなる結束を訴えました。

フォーラム

OBD 検査 フォーラムディスカッション



司会を務めた泉山大氏(中央)。

OBD 検査料金とバックアップ体制の課題

第6回目を数えたMSC 感動夢工場の研究会は「OBD 検査フォーラム」と題し、司会にフリーランス記者の泉山大氏を迎え、OBD 検査をはじめ人手不足対策などをテーマにディスカッション形式にて開催されました。OBD 検査がスタートして約5ヶ月が経過する中、会員事業者各社がOBD 検査に対し、どのように対応されているかを会全体で共有し、今後のビジネスに展開していくことが目的です。

事前に行ったアンケート調査では検査料金や検査オペレーションについて聞き取りを実施、その回答をベースに各社の発表が行われました。検査料金については会員事業者の平均値はおおよそ3,000円で推移する中、4,000円や5,000円に設定する会員事業者もあり、様々な戦略でOBD 検査に臨む事業者の姿勢が浮き彫りになりました。料金設定の根拠は、ほぼ全社で標準作業点数にのっとり決定していることも明らか

OBD 検査と人手不足・賃上げをディスカッション

見学 | 第22回 国際オートアフターマーケット EXPO2025 (IAAE2025)

第6回研究会の2日目は、この日東京ビッグサイトで開幕した第22回 国際オートアフターマーケット EXPO2025 (IAAE2025)を見学しました。過去最大規模となる718コマが出展したIAAE2025では、(株)バンザイのカーディテイルングブランド、「BPRO」を見学、ナノカーボンを国内初採用したボディガラスコーティング「クリスター プライム」をはじめとするプロユースの各種製品に注目が集まりました。



BPRO ブースを見学するMSC 感動夢工場会員。コーティングシステム(右上)と各種ケミカル(右下)

となり、検査オペレーションの確立の重要性が共有されました。

MSC 感動夢工場の初代会長を務めた山崎太氏が経営する



発言を行う山崎太前会長。

「OBD 確認」モードで問診を行い、完成検査で「OBD 検査」モードを実施するオペレーションと検査用スキャンツールの維持費用を含めて、検査料金の決定を行っています」と公表しました。

一方、OBD 検査の不安点では、検査対象車の見落としに懸念を示す事業者が多く、コンプライアンスの順守が課題となっていることが分かりました。とりわけ、うっかりミスでOBD 検査未実施の事例が各地で起きているとの情報があり、OBD 検査のシステムがそうしたミスに対応できていない点を踏まえ、車検証と特定 DTC 照会アプリの両方で検査の可否確認を行うことが重要との意見が出されました。

また、今後は年を追うごとに検査対象車が増加するため、検査車両が多くなってきた際、検査に時間がかかってしまう可能性や特定の大型車で通信不成立や不適合が検出されており、週末や時間外の場合対応が難しいとの意見などに、多くの会員が大きくなづく場面もありました。また、電子制御装置に不適合が出た場合、自社で対応できない場合があるため、そうした際のバックアップ体制を整えることが重要であるとの意見が多く聞かれました。

人手不足対策と求人方法を議論

一方、整備業界喫緊の課題となっている人手不足と賃上げ問題についても、多くの会員事業者が意見を交わすなど、関心の高さがうかがえました。外国人技能実習生をはじめ、外国籍の人材が社内



具体的な事例を挙げて説明する平田弘行理事。

で働く会員事業者はMSC 感動夢工場内ではまだ少数派ではあるものの、今年から受け入れを行う事業者もあり、少しずつ外国籍の人材に頼らざるをえない状況が明らかとなりました。

また、求人方法についても具体的な事例が多数発表されました。中でも平田弘行氏が経営する平田自動車工業(神奈川県大和市)では、求人サイトを効果的に利用している事例を発表、「求人サイトを利用するにはある程度のコストがかかりますが、必要経費だと捉えています」と発表し、多くの会員事業者から共感の声が上がりました。

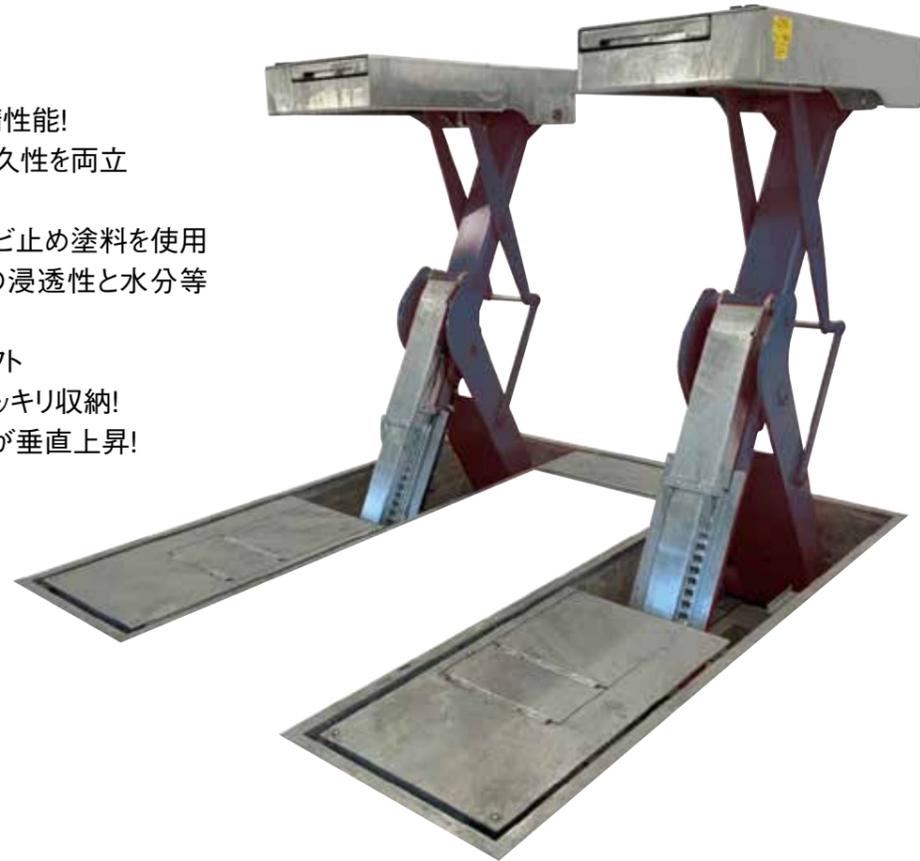
今回のディスカッションでは、様々な地域の様々な事業者の意見を共有することで、自社のやり方とは異なる方法を学ぶことができました。近年はこうしたネットワークの強みが再確認されており、MSC 感動夢工場も例外ではありません。全国で展開する整備事業者の取り組みを直接聞くことで、経営強化のきっかけとなるディスカッションとなりました。

SHOW ROOM

【パンタグラフ式リフト】Zフレックスリフト 防錆メッキ仕様 ZFA-32A(B)-M

寒冷地や湾岸地域の塩害対策に最適!

- 能力3.2ton
- 揚程1,800mm
- 溶融亜鉛メッキで優れた防錆性能!
衝撃や摩擦に対する高い耐久性を両立
- 防錆塗装
下地塗料にエポキシ樹脂サビ止め塗料を使用することで、素地への塗料の浸透性と水分等の遮蔽性を高めています
- スライドボード・アーム兼用リフト
アーム部分はプレート内にスッキリ収納!
- マルチリンク機構でテーブルが垂直上昇!
収納時は床面がフラットに



仕様

型式	ZFA-32A-M	ZFA-32B-M
油圧ユニット	内蔵	別置
対応車種	軽自動車～普通乗用車・1BOX、RV、小型トラック (ロングボディ車を除く)	
能力	3,200kg	
揚程	1,800mm	
フラットキット	無(防錆メッキ仕様は非対応)	
上昇/下降時間 (全負荷)	上昇: 約 38秒(50Hz)、約 32秒(60Hz) / 下降: 約 38秒	
電源・モーター	AC200V 三相 50/60Hz 2.2kW	
操作方法	リモコンスイッチ(有線) 操作電源 AC24V	
エア圧	0.69~0.97MPa	
駆動方式	電動油圧式	
左右同調方式	機械同調式	
本体重量 (油圧ユニット重量)	約 1,400kg	約 1,330kg(約 70kg)
付属品	プレートリフトアタッチメント 4個(PLA-2D)	

SHOW ROOM

【ブレーキ・速度計複合試験機】二輪車用コンビネーションテスター BST-30B

後輪制御盤のデザインを刷新!
制動力と速度計でそれぞれ独立して
計測値を表示できる液晶ディスプレイを搭載

- 2.4インチフルカラー液晶を搭載
計測値の視認性が向上
- ディスプレイの背景色を「青→赤」と変更させる
オーバースケール表示が可能
- 校正作業が液晶ディスプレイ操作パネルで行えます



後輪制御盤



前輪制御盤



※オプションの前輪用タイヤランプ装置、後輪用タイヤランプ装置は付いてません。



液晶ディスプレイ点灯状態



オーバースケール表示

仕様

型式	BST-30B	
本体	許容輪荷重	300kg
	ローラー直径×長さ	370×300mm
	ローラー軸間距離	500mm
	寸法(幅×高×奥行)	780×585×1,700mm
	重量	約 500kg
ブレーキテスト能力	指示方式	液晶ディスプレイ式
	最大制動力(一輪当り)	200daN
	使用範囲(一輪当り)	10~200daN
	ローラー回転数	3.13/3.75(50Hz/60Hz)
スピードテスト能力	駆動モーター	0.2kW
	指示方式	液晶ディスプレイ式
	最大測定速度	160km/h
	最小表示値	0.1km/h
	前輪操作盤寸法(幅×高×奥行)	400×1,390×250mm
	後輪操作盤寸法(幅×高×奥行)	350×1,390×200mm

SHOW ROOM

【大型車用リフト テストリフト】 洗車対応プラトン15 TL-P150AW

大型車の洗車に対応する防錆メッキ受台、
手動式安全装置を採用した能力15tの1柱リフト

- 能力15ton
- 受台の防錆メッキ化と電気部品を使用しない
手動式安全装置の採用により洗車に対応
- 標準付属の清掃用治具を使用する事で
安全にパイプ内の清掃が可能
- 有線リモコンのオートパワーオフ機能搭載により誤操作を防止

仕様

型式	TL-P150AW
能力	15,000kg
対象車種	小型～大型トラック・大型バス
揚程	1,100mm
電源	AC200V 三相 50/60Hz
モータ	2.2kW
油圧ユニット	別置式
作動油/使用油量	ISO VG46 耐摩耗性油圧作動油/約67L (タンク内約53L、シリンダー他約14L)
上昇時間	約121秒(50Hz)/約101秒(60Hz)
本体重量	約700kg
受台	防錆処理(溶融亜鉛メッキ)
安全装置	手動下降止め装置、ヒューズ弁、 過負荷防止(安全弁、過電流検知)
標準付属	メッキフロントアックス受 2個 安全ロードアタッチメント(清掃用治具) 1個 メンテナンスカバー 1個
オプション	無線リモコン(WLA-L-4BOX)



リフト外観



手動式安全装置

【超々高張力鋼板対応スポットカッター】月光金太郎 GK-KIN/GK-KIN150

スウェーデン鋼、ホットスタンプ鋼、超高張力鋼板
その他すべての鋼板に性能を発揮!

- 切削鋼板:1,600MPa(15～20穴)
エアードリル推奨回転数:1,000～1,200rpm

仕様

型式	GK-KIN (レギュラー)	GK-KIN150 (ロング)
ドリル径	8.2mm	
シャンク径	8.2mm	
全長	80mm	150mm

※GK-KIN150(ロング)は出荷単位10本より



SHOW ROOM

【チャコールキャニスター点検ツール】キャニスターチェッカー CCN-1

車検点検項目の「チャコール・キャニスタの詰まり」
を簡単にチェック!

- インタンク式のチャコールキャニスターを点検する際、
リアシートの取り外し作業を行わずに点検が可能
- フューエルキャップを付け替えるだけで簡単に点検
が可能となり、作業効率が向上



本体



接続ホース



フューエルキャップ

仕様

型式	CCN-1
駆動方式	エア
エア圧	1.0MPa以下
本体寸法	W370×D160×H278mm
重量	約3.5kg
付属品	フューエルキャップ 接続ホース

【可搬型EVバッテリー】POCHA LiB LIB-10-EVS

可搬型EV充放電装置“POCHA V2V”に
本商品を接続することで、EVへ電力を供給

- 救援車がBEV/PHEV以外の車両の場合は、
POCHA V2Vに本バッテリーを連携させること
でEVへ電力を供給することが可能
- POCHA V2Vを接続するだけで自動起動
- 電池残量ランプで残容量の確認が可能



救援車

POCHA LiB 本体

電欠車

仕様

型式	LIB-10-EVS
バッテリー容量	4.15kWh (12Ah)
バッテリー電圧	DC345.6V (範囲 DC240V ~ 393.6V)
放電最大電力	9.5kW
放電最大電流	40A (内部温度 -20℃~70℃)
サイズ ^{※1}	W403.1×H190×D896.5mm
重量	約44kg
動作周囲温度	放電時 -20℃~50℃ 充電時 3℃~50℃
防塵・防水性能	IP42 (防滴構造)

※1 ハンドル・突起物含む

本商品は、別途
「可搬型EV充放電装置 POCHA V2V
(MV2V-10K-BC)」
が必要です。

第38回オートサービスショー2025バンザイブースでは全11コーナーで最新機器をご提案いたします。

車検機器・車検システム

自動ブレーキなどの先進安全技術の機能を搭載した車両の増加に伴い、車検整備の内容はより高度で専門的に。最新車両に対応した車検機器と効率化システムをご提案します。

環境・カーボンニュートラル

温室効果ガスの排出削減、再生可能エネルギーの利用など持続可能な社会の実現にお役立ちできる機器が重要に。また、猛暑対策など作業環境改善機器もご提案します。

リフト

EV車両などの大型・重量化する車両への対応として、安全と効率を両立した作業環境が必要とされています。そのニーズに応える最新のリフトをご提案します。

大型車整備機器

自動運転や隊列走行など物流サービスの重要な役割を担うトラック・バスなどの大型車に対し、高度化・多様化する車両を安心・安全にサービスが行える環境を実現します。

門型洗車機・洗浄機器

環境意識の高まりや高品質な仕上がりが重要に！環境に配慮した洗車サービスの付加価値アップと作業者の負荷軽減を実現する最新機器をご提案します。

美装 (BPRO)

車両の美観や耐久性を向上させるだけでなく、視界確保などの安全性や快適性を求めるなどニーズは様々。BPROは高品質で最適なコーティングソリューションをご提案します。



タイヤ機器

車両装着タイヤの大径低扁平に伴い交換作業は高難度化が進んでいます。多様な足回り技術の進化に対応!作業者の安全と省力化に繋がるタイヤ整備機器をご提案します。

板金・塗装機器

環境規制や新素材や新技術による多様化に対応する為に必要な車体整備関連機器をご提案。また、車体整備業におけるコンプライアンス遵守の重要性もサポートします。

トータルエイミング

自動運転技術の進化に伴う運転支援システムが適切に機能する為の整備に必要な最新機器を展示。高度化する整備に対応するより進化した「トータルエイミング」を紹介いたします。

次世代モビリティ

EV車両の普及に伴い、エンジン整備から新たなメンテナンスとして、バッテリー交換やバッテリーの状態管理などが重要に。EV特有のメンテナンスやサービス機器をご提案します。

安全推進

取扱不良や点検不履行による事故、労働災害を防止するために安全点検をトータル提案します。整備工場内での事故の発生を抑制し、より安全な作業環境の推進を行います。

下記スケジュールにてプレゼンテーションを予定しております。ぜひお越しください。

車検機器コーナー 実演プレゼンテーション

人手不足が深刻化していく中、検査員を確保していくことが難しい時代となってきました。少しでも検査員の負担を軽減して、人材を確保していくための商品を紹介いたします。

	6月19日(木)	6月20日(金)	6月21日(土)
10:30~10:50	○	○	○
13:30~13:50	○	○	○
15:30~15:50	○	○	—

トータルエイミングコーナー 実演プレゼンテーション

2020年4月から施行されました特定整備制度の主軸になる整備である、エイミング作業に関してご提案させていただきます。

	6月19日(木)	6月20日(金)	6月21日(土)
11:30~11:50	○	○	○
14:30~14:50	○	○	○
15:50~16:05	○	○	—

BANZAI GUIDE

BANZAI NEWS A4判にリニューアル!!!

BANZAI NEWSをいつもご愛読いただき、心より感謝申し上げます。

1950年に現在のバンザイニュースが創刊してから時代の変化とともに様々な形で発行してまいりましたが、この334号からBANZAI NEWSのサイズを従来のB5判からA4判へリニューアルいたしました。この変更により、誌面をより広く使い、写真や文章を一層見やすくし、皆様に親しみやすい誌面をお届けできるよう努めてまいります。

長年親しんでいただいている現行サイズからの変更に伴い、皆様には少々の違和感を感じられるかもしれませんが、新しい誌面をより快適にお楽しみいただけることを目指しております。どうぞご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後とも、皆様に愛されるBANZAI NEWSを目指してまいりますので、変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



編集後記



春風が心地よい季節となりましたが、お元気にお過ごしでしょうか。
いよいよ6月に開催される「第38回オートサービスショー2025」に向けて、今後の設備導入にお役立て頂ける情報を提供できる様に準備しております。

又、社員一同、皆様にお会い出来る事を楽しみにしておりますので、ぜひご来場頂きます様よろしくお願い致します。

<田村>